

# 桑名七盤勝負入門

令和元年 12 月 15 日

## 1. 著者紹介

【氏名】和田 信也

【出身地】宮城県仙台市

【七盤名】七盤のアルテミス

【七盤大会実績】

第1回郡山大会優勝 (H30.4)、第2回郡山大会優勝 (H30.10)、第1回宇都宮大会準優勝 (H31.4)、第4回世界大会ベスト8 (H30.8) 第5回世界大会ベスト8 (H31.2)、第6回世界大会優勝 (R1.8) 通算 22 勝 3 敗

【棋力】

- ① 将棋 四段、将棋クエスト六段 (2150~2200 点)、将棋ウォーズ四段
- ② 囲碁 二段、囲碁クエスト9路二段 (1750~1850 点)
- ③ オセロ 初段、オセロクエスト三段 (1850~1950 点)
- ④ チェス チェスクエスト初段 (1650~1750 点)
- ⑤ 連珠 五目クエスト二段 (1750~1850 点)
- ⑥ どうぶつしょうぎ どうぶつしょうぎウォーズ二段
- ⑦ バックギャモン 初級者

【棋風・得意戦法】

基本的には、各競技ともオーソドックスな展開が好み。

- ① 将棋 居飛車党。相居飛車なら相矢倉、角換わり腰掛け銀が中心。対振り飛車には居飛車穴熊が多い。
- ② 囲碁 初手星からのブラックブーメラン。
- ③ オセロ 黒番なら虎大量か Stephenson、快速船。白番はほぼ縦取り。
- ④ チェス クイーンズ・ギャンビット一択。
- ⑤ 連珠 浦月&花月。
- ⑥ どうぶつしょうぎ 特になし
- ⑦ バックギャモン 特になし

## 2. 各競技の練習法

### ① 将棋

七盤に特化した練習はしていません。今はたまに棋譜並べ（将棋年鑑、藤井聡太全局集など）、詰将棋（9手くらいまでの短手数のもの）程度。実戦の機会は、所属支部（東北青棋会）の月例会や県内の将棋大会に年10回程度参加しているほか、上京した際には御徒町将棋センターに足を運ぶこともあります。解析ソフトは「やねうら王」を使用。大会で指した将棋の仕掛け周辺の評価値を確認したり、NHK杯を鑑賞する際に立ち上げてプロ棋士の指し手や解説の内容と評価値の相違を眺めています。気になる定跡書は大体購入していますが、そのまま本棚直行となるケースが多く、実戦でその戦型が現れた際に引っ張り出して手順を確認する感じです。七盤を始めてから、相対的に他競技の練習の比重が大きくなり、ネット対局などはあまりできていませんが、将棋に関してはクエストやウォーズよりも将棋倶楽部24のほうが良いように思います。近年、将棋の勉強法も多様化しており、ユーチューブでもアゲアゲさんやアユムさん、石川泰さんなどの元奨励会員の無料動画を気軽に楽しむことができます。初級者の方はNHKの講座と対局を毎週見るのが今も昔も最もコスパの良い上達法だと思います。

### ② 囲碁

時間のあるときに、本町囲碁クラブや仙台駅前囲碁サロン、東北福祉大学「囲碁の杜」などで19路を打っています。19路と9路はかなり違いますが、攻め合いやヨセ、死活など、共通する部分もたくさんあります。NHK杯は録画して時間のあるときに鑑賞していますが、録画が溜まる一方。19路の棋譜並べや詰碁などはほぼやっておらず、私の場合には「9路のための19路」という感じです。動画はトライボーディアンの強豪、みらいさんの「囲碁クエスト9路実況」がオススメ。

### ③ オセロ

長男が小3のときにオセロを覚え、それ以降一緒に家族で始めました。入門書で基本的な考え方を身に付けた後は、クエスト→解析→クエスト→解析を繰り返すのがオーソドックスな練習法でしょうか。子どもたちが初心者の頃は、「オセロ小学生グランプリ」を想定し、自宅で10分切れ負けの実戦も数えきれないくらい打ちました。詰めオセロは大の苦手。実戦は仙台オープンをはじめ、各地で開催される大会に家族で遠征したりしています。動画はクエスト2400点超の強豪、ラスクさんのものでしょうか。オセロの解説がわかりやすい上に、編集が素晴らしい内容です。

#### ④チェス

クエスト、ヒーローズなどのアプリをたまにやる程度。本も入門書含めて数冊しか持っていません。将棋と共通点も多いですが、当然ながら相違点も多く、なかなかコツがつかめず苦勞しています。私を感じる相違点としては、「ポーンの独特の動き」と「駒がぶつかったときの対応」。将棋の場合、駒がぶつかったら取る手が自然ですが、チェスの場合は逆に取らない手のほうが好手であるケースが多いような気がします。その理由は、持ち駒を使えるかどうかというルールに起因するのでは？また、クエストの3分や1.5分はあまりにも短く、しっかり考えて対局するなら10分ですが、七盤に限っては「3-3でチェス残り」というケースも多いため、そのときの叩き合いを想定した練習にはなるのかもしれませんが。。。動画は海外のもの（英語）がほとんどで、英語力とチェス力の両方が乏しい自分には敷居が高いです。解析ソフトもあるようですが全く使っていません。

#### ⑤連珠

気が向いたときに五目クエストで対局。他のゲームに比べ、短時間で決着がつくことが多いのが魅力だと思います。本を何回読んでもなかなか定跡が頭に入らないため、覚えるのは諦めて、その場考えて打っています。連珠大会や例会などに参加した経験はありません。動画はあまり見ていなかったのですが、「那智暴虐のれんじゅいし」さんのものがかなり良さそうです。

#### ⑥どうぶつしょうぎ

通常は全く触れていませんが、七盤の大会直前だけ集中的に「どうぶつしょうぎウォーズ」で練習します。大会直前には一日100局近く指したことも。集中的に指すと、「よく採用される進行」を身をもって実感できるので、逆にどんな進行だと余り出てこないかがわかり、間違いやすい進行を見つけやすいかもしれません。また、この競技を攻略するには解析ソフトが必須。初心者方は、まず解析ソフトの手順を見ながら代表的な進行を数種類、ひたすら繰り返し盤に並べて覚えることをオススメします。あとは、短手数（3～5手）の詰将棋を瞬時に解く力も必要なので、将棋の苦手な方はどうぶつ対策としても詰将棋が効果的だと思います。

#### ⑦バックギャモン

はじめて七盤に参加することを決めた、昨年3月頃にルールを覚えめました。未だに初級者で、大会でもよく駒の動きを間違い対戦相手の方に迷惑をかけています。ダイス運に大きく左右される競技なので、練習がついつい後回しになりがち。大会直前に「バックギャモンエース」を少しやる程度。最近、バックギャモンクエストがリリースされたので、こちらも近いうちにやってみようと思います。私の場合は、「苦手なバックギャモンを除く6つのう

ち4つ取る」が基本戦略なので、練習の時間はあえて少な目にしています。

### 3 オススメの書籍・ソフト

#### ①将棋

有段者向けになってしまいますが、将棋年鑑、藤井聡太全局集などの実戦集、将棋世界、〇手詰ハンドブックなど。定跡書は戦型にこだわらず一通り持っています。詰めパラは学生の頃までは購読して解いていたこともありますが、今はしていません。

解析ソフトはポナンザや激指も持っていますが、「やねうら王」を使用。中盤の定跡形からの仕掛け後の手順で、評価値の変化を見たりしています。現在のソフトはまだ評価値が出るのが遅いので、普段はクエストのヒント機能（技巧）またはウォーズの棋神（ポナンザ）でも十分に参考になります。

ソフトで精度の高い評価値が出るようになってつくづく感じるのは、将棋は「最善手・好手を指す」ゲームというより、「疑問手・悪手を指さないようにする」ゲームということです。いささか味気ない気もしますが、駒がぶつかる中盤の仕掛けあたりまでは形勢に決定的な差がつかないので、ほぼノータイムで指して時間を残しておくのが、七盤やアマ大会では勝率の高い指し方なのかなと思います。

#### ②囲碁

9路関係だと、安齋伸彰著「9路盤完全ガイド」、芝野龍之介著「9路盤の手筋」、寺山怜著「ヨセの強化書（基礎編・応用編）」の3冊でしょうか。

ソフトは「天頂の囲碁7」を持っていますが、全く使いこなせていません。地力をつけるには地道に詰碁を解くのが一番のように思うものの、今一つ興味が持てず、なかなか手を出せていない状況です。

#### ③オセロ

入門書としては、村上健著「強くなるオセロ」、滝沢雅樹監修「図解オセロの基本など。まずはこれらで基本的な考え方をマスターします。近年刊行された本では、佐谷哲著「現代オセロの最新理論」、高橋晃大著「オセロ必勝手筋」の2冊が有名ですが、どちらも難易度は高め。また、オセロ連盟の会員になると、年3回「オセロニュース」が送付されてくるので、大会の棋譜や次の一手などが見れます。オセロは解析ソフトの精度が極めて高く、上達には必須。iOSなら「iEdax」、WindowsやAndroidなら「ゼブラ」を使っているオセラーが多いようで、生オセロの大会に行くと、常連さんは対局終了後、スマホの解析ソフトですぐに振り返っている光景を目にします。なお、オセロゲームの歴史を紐解きながら上達したいという方は、オセロの創始者

である長谷川五郎著「オセロ大観」「オセロの勝ち方」などの本もあります。

#### ④チェス

入門書は、渡辺暁著「ここからはじめるチェス」「図解チェス入門」を持っています。戦術書は、「渡辺暁のチェス講義」、「ボビー・フィッシャー魂の60局」、「チェス戦略大全Ⅰ、Ⅱ」、チェスクラシックスの「いちばん学べる名局集」「終盤の300題」などいろいろと買い揃えてみたものの、いずれも読破に至らず。こなれた日本語で書かれた戦術書はとても少なく、例えばフィッシャーの実戦集も棋譜の内容は素晴らしいに違いないのですが、解説がなかなかすんなり入ってこない気がします。将棋勢としては、一度、じっくり時間をかけて勉強してみたい競技です。

#### ⑤連珠

市販されている本は少なく、新井華石著「連珠必勝法」と三浦和・小林高一著「連珠入門」の2冊くらい。「連珠必勝法」は各殊型ごとに定跡が紹介されていて参考になりますが、かなり難しい。いつも打っている「浦月」「花月」ですら、定跡手順が頭に入っていません。詰め連珠の本としては、中山智晴著「実戦で勝てる3手の詰め連珠」、岡部著「実戦で勝てる4追い問題集」の2冊。ソフトは「Yixin」をダウンロードしてみたものの、活用方法がよくわからないのでほとんど使っていません。

#### ⑥どうぶつしょうぎ

市販されている戦術書はありません。解析ソフトとしては、「あにはい」が無料ですが、1手しか示されないのが難点。そのため、私は「どうぶつしょうぎ大全」を使っています。

#### ⑦バックギャモン

「バックギャモン入門」と「バックギャモン・ブック」の2冊を持っています。

### 4 手番選択の考え方

基本的には、どうぶつ後手>連珠黒>>>囲碁白>オセロ白>>チェス先手>将棋先手の順に選択していますが、どうぶつと連珠のどちらを取るかは相手によって変えています。

個人的には、「連珠勢にどうぶつ後手を取られる」、「どうぶつ勢に連珠黒を取られる」というのが最も嫌なパターン。また、囲碁とオセロは黒番と白番で方針が明確に違うため、対戦相手との棋力差や得意形によって決めます。クエストの対局数が多い方は、それぞれの競技の自分（や相手）の先後勝率を調べるのも参考になるかもしれません。

## 5 時間の使い方

45分切れ負けはとても短いため、時間の使い方が単一競技以上に重要となります。私が心がけていることは、

- ・将棋は中盤までは飛ばす（見えた手を指す）
- ・バックギャモンも飛ばす（初級者のため、考える材料に乏しいため）
- ・一手指すごとに対局時計を必ず確認し、できるだけ相手より時間を残す
- ・連珠黒でどのくらい考えるかを決めておく

くらいでしょうか。特に最後ですが、連珠黒は勝ち切るまでの手順を読み切らなければならない局面が訪れることが多いですが、そこで時間を投入して読み切りにいくか、タイムマネジメントを優先するかの判断は重要かと思えます。ちなみに、本年8月の世界大会では、私は連珠全敗！！だったのですが、時間に追われることなく優勝することができました。このあたりは状況次第、としか言えないでしょうか。

## 6 どうぶつしょうぎ先手のコツ

どうぶつは後手必勝のため、先手番のときは相手に間違ってもらえないと勝てません。一回間違ってもらってもまだ引き分けの場合が多く、二回間違ってもらえないと勝ちの局面まではいかないことがほとんど。なので、私の方針としては、先手を持ったら何とか相手に一回だけ間違ってもらうようにして、千日手指し直しも辞さず構えで臨んでいます。

また、通常のウォーズだと、最長手順定跡は78手かかりますが、七盤の場合には他競技とあわせて「7手一組」で進んでいくので、実は単純計算だと78手×7=546手もかかることに。。。これだけの長手数でずっと最善手を続けるのは難しく、これが「ウォーズでは間違えない」局面で間違える要因になると思います。つまり、先手番の際に相手に間違ってもらうコツは、基本的な手順を頭に入れておくのが大前提ですが、どうぶつ単体で考えるのではなく、他競技の局面をできるだけ複雑にし、注意力を相対的にどうぶつから離すことができるかどうかにあると思っています。具体的には、どうぶつが佳境の場面で、囲碁で敵陣に突入する、将棋で駒をぶつけて局面を動かす、といった手法が考えられます（実際にそんなうまく行くケースは少ないでしょうが）。

## 7 叩き合い

実力が拮抗すると、最後は3-3となりいずれかの競技が残ることになります。競技の性質から、決着が着くのが遅い将棋やチェスが残ることが多いですが、どうぶつも千日手指し直しの影響で、最後に残ることが結構あります。

叩き合いはある意味見苦しい側面もありますが、7競技を45分切れ負けで行うのでやむを得ないところ。そしてこの「叩き合い」ですが、囲碁やオセロ、バックギャモンの世界ではあまり見られない光景なのではないでしょうか。過去の世界大会優勝者はいずれも将棋系から出ていますが、もしかするとこのあたりも影響しているのかもしれませんが。

## 8 おわりに

とりとめなく書き連ねてきましたが、各競技の練習法や大会で勝つコツなど、やや偏った視点からの文章になってしまったかもしれません。七盤の楽しみ方はまさに人それぞれだと思いますので、各選手には自分のスタンスで大会やイベントに参加いただき、「桑名七盤勝負」がますます発展していくことを願い、ひとまず筆を置かせていただきたいと思います。

改めて、このたびは第1回仙台大会へのご参加・ご来場いただき誠にありがとうございました。